岐阜市におけるハバチ科ミツクリハバチ属
シロアシマルハバチ(*Eriocampa albipes*)の発生

2017 年 5 月上旬に、岐阜市三田洞のながら川ふれあいの森で、ヤマハンノキの幼木の葉につくたくさんのハバチの幼虫を目撃した。幼虫は全身に白色の蝋状の物質をまとっており、ミツクリハバチ属であることが示唆された。ヤマハンノキを食草とする種として、ミツクリハバチ、シロアシマルハバチが知られていた。おそらく 100 匹はいたので、成虫も大発生するだろうと思い、ときどき幼木の観察にでかけた。ヤマハンノキの新葉はほとんど食べつくされていたが、残った葉のうえに止まるずんぐりとしたハバチ成虫を目撃した。胸部背面が赤みを帯びており、ミツクリハバチの成虫であることがわかった。幼虫と成虫の発生時期が重なることから、問題の幼虫はシロアシマルハバチの可能性が高いと思われた。

その後、ヤマハンノキでハバチをみかけることがなかったが、2018 年 3 月になると、ヤマハンノキの新芽が膨らみ、葉が伸びだした。3 月末に葉のうえに止まるハバチ成虫を目撃したが、4 月に入ると個体数が急激に増え、2017 年 5 月に目撃した幼虫が土のなかで蛹になり、11 ヶ月後に羽化したものと思われた。成虫の形態を接写した写真から、*Eriocampa albipes* Group に属する成虫であることがわかった。Togashi (1980)および Togashi (1981)の記載と比較したところ、胸部背面の点刻、頭部や触覚の形態から、シロアシマルハバチの成虫に絞り込むことができた。ハバチの生態を明らかにするには、時間をかけて取り組む必要があることを実感した。

図 1 . 岐阜市内のヤマハンノキで発生したシロアシマルハバチの幼虫(2017 年 5 月 5 日)と成虫（2018 年 4 月 1 日）.

Togashi, I. (1980) Sawflies of the genus *Eriocampa* HARTING in Japan. Kontyu, Tokyo, 48, 35-41.

Togashi, I. (1981) Further description of the species belonging to the *Eriocampa albipes* Group (Hymenoptera, Tenthredinidae) occurring in Japan. Kontyu, Tokyo, 49, 96-101.